

9 原馬室の獅子舞

7月に祈祷ささら、8月に祭典さ

六尺棒、太刀を使用した35の演目

絹本着色阿弥陀廿五菩薩来迎図

来迎図とは、阿弥陀如来が聖衆を従え

往生者の霊を迎えに来るという説話を

絵に表したものである。勝願寺の来迎図

は鎌倉時代の作とされ、如来や諸菩薩が

11 木造安達藤九郎盛長坐像

安達藤九郎盛長は源頼朝の信任を受

、鶴岡八幡宮の奉行人として鎌倉幕府

。正治 2 年(1 2 0 0)死去。盛長

と伝える木像は入道蓮西の頃の姿とる

、寄木造り玉眼入りで南北朝時代の何

慶長16年(1611)11月、徳川

その折、鴻巣宿の小池隼人之助は

家康・秀忠は鴻巣地方に鷹狩りに巡游し

宅を宿所として提供した。軍扇・鞍など

の品々は、家康より隼人之助に与えられ

たものといわれている。

と思われる。像高77.4cm。

(糠田 放光寺蔵)

の要職にあった。正治元年(1199

頼朝の死去の年に出家して蓮西と号

来迎する姿が優雅に描かれた作品であ

なる棒術が行われる。

[馬室獅子舞棒術保存会]



〈市指定 歴史資料〉 この石碑は宝暦9年(1759)に建 されたもので、碑文は武蔵介源経基(つ と)の徳、箕田源氏の源仕と渡辺綱 活躍及び箕田の地が武蔵武士の本源地 であったことを漢文で記している。また 背面は約20年後の安永7年(1778) こ追刻された和文草体の碑文で、綱の辞 せ、芭蕉、鳥酔の句を記して武人の誉れ を偲んでいる。高さ165cm、厚さ1 0 c mの緑泥片岩製である。 箕田 氷川八幡神社)

10 法要寺の庚申塔

〈市指定 民俗資料〉

本町 法要寺)

道しるべである。

2 道永の板碑2基

〈市指定 考古資料〉

箕田道永)

庚申信仰は室町時代から広く行われる

うになり、江戸時代には最盛期を迎え

)の造立で、庚申の由来を記した銘

様々な様式の庚申塔が造立された。笠を

道しるべは、主要街道から脇往還なん

入る分岐点に立てられた道路指示標で

らる。この道しるべは中山道から松山秩

父方面への分岐点に建てられたもので2

基ある。寛政7年(1795)銘のもの

2) 銘のものは高さが81.5 c mあ

は高さが99cmで、享和2年(180

庚申塔を兼ねている。市内に残る貴重な

板碑は鎌倉時代から室町時代にかけて

告立された板状石製の供養塔で、石材が

狭父青石であることから青石塔婆、板石

7年(1270)と正応2年(1289)

滝馬室の常勝寺には密教修法の法具が

数多く残されている。密教法具は奈良時代に渡来したといわれ、平安時代になる

と様式も多様化し広まっていった。常勝

の法具は江戸時代のものと思われる。

滝馬室 常勝寺蔵)

塔婆などと呼ばれる。道永の板碑は文流

の造立で鎌倉時代の特徴をよく表してい

ただくこの庚申塔は、寛政2年(

文が刻まれた貴重なものである。

8 雛人形師仲間訴訟文書

鴻巣の雛人形製作は一説には江戸時代

の元禄期からと古く、天明期には販路も

広域化してついには江戸の雛屋仲間と対

立するに至った。この訴訟文書は、江

の雛屋仲間と鴻巣を含む武州の雛人形師

仲間との販売に関わる訴訟の古文書であ

る。安政6年(1859)から慶応2年(

866)のものまで計6点ある。

(鴻巣市蔵)



黒沼家に伝えられる弁財天塑像は、

面に弁財天と15人の童子、裏面に空海

の手形が押され、小指に天長7年(83

0) と刻まれている。この塑像は江ノ島 神社の社宝と同型であり、それを写した

ものと思われる。土版で縦23.5cm、

横20.3cm。江ノ島の弁財天信仰を

道に秀で後陽成天皇、後水尾天皇の招き

に応じ宮中に上り大字を書いて奉り、名

いるのは「仁義礼智信」の五常の書であ

いう)は、延暦年間(782~806

)征夷大将軍坂上田村麻呂の大蛇退治(

承に由来する。例年正月12日に五穀豊

的に矢が多く当たるとその年は豊作

るという。この神事は一時中断され

に当地の島田常勝という人物によっ

松村篁雨(まつむらこうう)墓

松村篁雨は享保18年(1733)

谷村の旧家松村家に生まれ、鴻巣宿で図

業を営んだ。詩文俳諧を好み、松羅堂

ょうらどう)または案山子庵(か)

しあん)と号し、篁雨はその俳号である。

算額とは和算家が和算の問題と解答を

木版に描き、神社仏閣に奉納したもので

あり、絵馬の一種である。和算は、中国

の影響を受け、日本で独自の発達をとけ

た数学で、江戸時代に関孝和(1642

~1708) らによって研究が深められ

この算額は関流の和算家都築利治(旧

騎西町) の門人12名が明治28年(

895) に奉納したものである。

(三ツ木 三ツ木神社蔵)

2 薬師堂の算額

化6年(1809)没。

上谷 観音堂)

31 三ツ木神社の算額

<市指定 絵画>

復興され現在に至っている。

滝馬室 氷川神社)

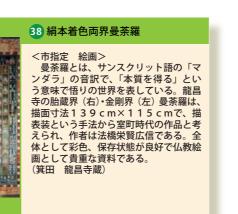
が、貞享年間(1684~168

蓮禅師の号を賜った。安龍寺に残され

(安養寺 安龍寺蔵)

物語る資料である。





渥美窯産の広口壺で、製作年代は12

世紀末頃(平安時代末~鎌倉時代初頭)

考えられる。火葬用の蔵骨器として利

用されたものである。出土地と製作年代

が明らかであり、中世初期に在地有力者

加藤政之助は安政元年(1854)滝

馬室の旧家に生まれ、明治13年(18

80) 埼玉県議会議員に当選し、以後衆

議院議員、貴族院議員を歴任した。福沢

諭吉と親交があり、実業界や教育界でも

巣高校の前身) の開設に尽力した。この

2対4幅の遺墨は、昭和3年(1928)

に書かれ、埼玉県議会議員矢島唯之助氏

41 鴻巣の木遣り・纏振り・梯子乗り

纏振り・梯子乗りなどいわゆる鳶職の

事は、一般に江戸時代に江戸町奉行大

岡越前守忠相が町火消しの組織を作った

のが始めとされる。一方、木遣り歌はも ともと労働歌として古くから唄われてい

木遣り歌の歴史は他の芸能より古く、地

仁治三年双式板碑

〈市指定 考古資料>

43 前砂の板碑群

(前砂 龍昌寺)

(市指定 考古資料)

成によってそれぞれ特徴があるとされ

板碑は鎌倉から室町時代に盛んに造立

れた板状石製の供養塔で卒塔婆の一種

2) の造立で、2基一対の図像板碑で

昭和8年頃、元荒川改修の際に、前砂

地内河畔より多数出土したもののうち5

る基を龍昌寺に収納したのが同寺板碑群

0始まりであり、その後昭和54年同地

区内塚ノ越から新たに出土した16基も

対の小型のものが多いが、その紀年、F

態、数量等郷土の歴史資料として貴重な

である。金乗寺の板碑は仁治3年(1

ある。旧小谷城内にあったと考えられて

されている。起源は明確でないが、

矢島家旧蔵 鴻巣市教育委員会蔵)

活躍し、地元鴻巣の武陽実業学校(現鴻

の存在を示す貴重な資料である。

〈市指定 老古資料〉

(糠田 放光寺蔵)

40 加藤政之助書4幅

に贈られたものである。

<市指定 書跡>



徳川家の葵定紋を附した厨子の中、敷 台の上に御守殿風藤松模様の内掛姿では やかに立つ女性は徳川家康の長女亀姫 である。 亀姫は、 16歳の天正3年(575) に織田信長の仲立ちで青年城主 奥平信昌に嫁した。夫信昌の立身により 美濃加納城(10万石)に入り、加納姫 または加納御前と呼ばれた。子孫は後年 忍城主なってこの地方の民政に尽した 、伝加納姫木像がどのような経緯で宝 蔵院の所蔵となったのかは不明である。 (鎌塚 宝蔵院蔵)

<市指定 彫刻>

当所の薬師如来像は行基菩薩作とされ

が、近年の調査よれば江戸時代の作品

と想定される。木造、寄木造、漆箔、玉眼

下総守氏長の家臣であった石川隼人の守

護仏であったが、成田氏滅亡後は宝積院

に納められたものである。なお、脇侍に

当寺は天正2年(1574)僧玄越に

よって創建された。玄越は寺の経営に当

たるとともに率先して周辺村々の新田開

発に当たり、その功大であるとして時の

関東郡代伊奈備前守忠次より慶長13年

(1608)に「寺領7石及び境内除地2

670坪を賜る」のお墨付きをもって寺

運興隆の基をつくった。 なお、文書の宛 先が永勝寺でないのは、玄越が当寺寺域

内に別の一字「善勝寺」を建てて隠居し

中国の影響を受け、日本で独自の発達

をとげた和算は、江戸時代に大いに発展

た。関孝和によって研究が深められる

関流の和算の流派に当所小林要吉郎が属

いた。この算額は小林要吉郎勝栄-

門が嘉永3年(1850)4月大芦氷川

神社に奉納したもので、一門は大芦をは

じめ各村にわたる46人で、算法上達祈

北新宿の永勝寺境内の北隅に、相海上

養の五輪塔が1基建てられている。 相海

の入定塚とする小堂があり、中には供

:人の入定は、同寺の過去帳によれば寛

(2年(1662)2月21日とされる。

の由来は諸処放浪の末、新宿村へ辿り

着いた頃に喘息に悩み、そのため上人は

地の人は咳の神様として願をかけ、治

と酒を供えてお礼をするならわしと

昭和32年5月10日下忍の通称下屋

敷と呼ばれる畑地を十地所有者の小林清

一氏が田に転換するために約60cm振

リ下げたところ土製の甕(常滑産甕)

ことが千体仏発見の端緒となった

また、翌日、北側隣接地で約300体の

仏像を発見した(『千体仏像発掘調査報

告書』)。この千体仏の年代は常滑産甕の

特徴から南北朝時代と考えられている。

出土し、その中に仏像が約30体入っ

世の中の人々をこの病から救おうと仏に

すがるべく自ら入定したとされる。以来

<市指定 考古資料>

(鴻巣市教育委員会蔵)

大芦ささら獅子舞

継がれてきたとされる。

(大芦ささら獅子舞保存会)

市指定 無形民俗文化財>

太鼓、笛、ささらなどの伴奏で舞い踊

、大芦の場合も300年程前、東吉見

辺りより伝来したとされる。村内の斎藤

る獅子舞は多くその伝承を明らかにせ

家を家元としつつ村の寺社の祭りと共に

らに国家安泰を祈りながら今日まで受け

発展し、村人の無病息災と五穀豊穣、

日光・月光菩薩がある。

2 伊奈忠次黒印状

<市指定 古文書>

(北新宿 永勝寺蔵)

53 大芦氷川神社の算額

願を込めたものである。

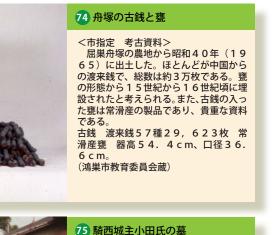
(大芦 氷川神社蔵)

(鎌塚 宝積院蔵)

cm) である。この尊像は忍城主成田







雲祥寺の開基である騎西根古谷城主小

田顕家とその息女の供養塔である。小田

顕家は常陸国の守護小田氏の一族とい

れ、戦国時代に上杉憲政に属し活躍した

向かって右の顕家の墓は中世の特徴を残

した天文8年(1539)の宝篋印塔で

隣の息女の墓は、慶長13年(160

円通寺の石塔(板碑と宝篋印塔)

正嘉2年(1258)銘の板碑は、人

里地域最古のものである。高さ110

mで、阿弥陀一尊種子を表している。『観

無量寿経』から抜き出した偈文が彫られ

8) 銘がある。高さ83cm。

ある。高さ112cm。



63 玉芝短冊と俳諧図書 <市指定 歴史資料> 横田玉芝(ぎょくし)は、江戸時代末 期の天保、弘化、嘉永にわたって当地方 俳壇で名を挙げた俳人である。当時盛ん こ発刊された俳諧誌に武州榎戸玉芝とか 榎戸玉芝とかいう紹介のしかたでその発 句が記されているところから彼が榎戸の 人であることが分かる。榎戸横田家の第 7代当主氏宣(うじのぶ)といわれてい (鴻巣市教育委員会蔵)



<市指定 無形民俗文化財>

に始まったと伝えられている。

(広田鷺栖神社龍頭舞保存会)

広田のささらは、別名「龍頭舞」とい

て頭に龍頭をかぶって舞う獅子舞であ

6。毎年10月15日쭽柄神社に五穀豊 策と悪魔除けを祈願して奉納されて**い**

。龍頭舞に先立ち子供たちによる「オ

」と呼ばれる棒使いが奉納されるのか

持徴である。歴史は古く、同神社に残る

古文書によれば、寛永16年(1639

77 雲祥寺の梵音具 (梵鐘・雲版)

梵鐘は、正徳6年(1716)の銘が

あり、妙法蓮華経全文9万9千9百余字

な文字で鐘全体に彫ってあるのに驚か

れる。高さ184cm、口径94cm。

雲版は、寺で食事などを知らせるため

こ打ち鳴らした雲形の板で、青銅製であ

。作成年は明徳5年(1394)で

35文字の銘がある。縦49.2cm。

樹齢推定500年といわれ、天正19

年(1591)新井家の先祖新井弥左衛

門が荒れ果てた広田村の開発者として

値する以前から広田村を見続けてきた

村開発の記念碑的存在である。

つての威容を偲ばせるその姿は、広田

68 新井家の大榎

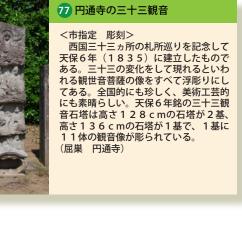
<市指定 天然記念物>

近づいて見なければ分らない程の。









78 円通寺の観音堂

観音堂は総檜三間四面堂で、正面に向

拝が付されている。屋根は一重入母屋造・ 軒唐破風付の銅板葺となるが、これは後 世の改変によるもので、当初は茅葺屋根

であったと考えられる。組物は禅宗様

手先で、尾垂木上の秤肘木先端は渦巻

の拳鼻となる。外観の様相は至って格調

高いものであり、馬頭観音の庶民信仰を

一層高めていると思われる。江戸時代初

79 円通寺観音堂の木造馬頭観世音菩薩坐(

木造、玉眼、漆箔、眉墨描で本面の

に馬頭印を載せ、髪は怒りのために逆立 つ怒髪の形を表している。製作は江戸時

代中期とされる。顔は本面の左右にそれ

ぞれ一つの脇面が付く三面である。本面

の目は三つ、脇面はそれぞれ二つである

腕は八本で、本手の二本で印を結び、

右の脇手はそれぞれにものを持つ。足 右膝を立てて、左足裏に重ねる輪王坐と

(屈巣 円通寺観音堂蔵)

30 円通寺観音堂の木造神馬

木造、玉眼、彩色で布・和紙を張り

像高:119cm 尻高:76cm

像高:101cm 尻高:72cm

丸みを出すために大鋸屑で下地を固め

いる。製作は江戸時代後期である。

たてがみは失われている。

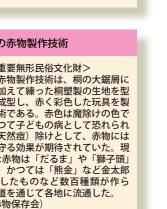
いう形をして蓮華座に坐っている。坐高

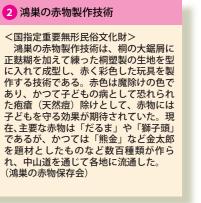
期建立の可能性が考えられている。

(屈巣 円通寺観音堂)



出土した例は少なく、当時の埴輪生産の 様子を知る上で貴重な資料である。





伊奈備前守忠次(1550~1610

は三河の出身で、徳川家康に仕えて絶大

特に測量、土木技術に優れ、利根川や荒

|の治水事業に業績をあげた。また、

の後を継いで手腕を発揮したのが次男伊

奈半十郎忠治(1592~1653)

を行った人物とされる。勝願寺には、

次・忠治とその夫人の墓4基がある。

江戸時代、参勤交代を契機として街道

が整備され、主な街道には距離の目安

本橋からはじめて一里(約4km)

こ、およそ10m四方の塚を築き、

ある。市内小松の一里塚は、元々東西-

対あったものが、明治時代になって鉄道

敷設の際に東の塚が取り壊され、現存す

る1基のみになった。 (野原家・高杉家)

上に榎や松などの樹木を植えたもので

して一里塚が築かれた。一里塚は、

本格的な「利根川の東遷」、「荒川の西遷

な信頼を得、関東郡代となって活躍した

1 伊奈忠次墓





3 後陽成天皇御宸筆

勝願寺第二世不残上人は学徳にする

ι、徳川家康も深くこれに帰依していた

宸筆を下賜されたものである。

はしきぬとねがう門跡)

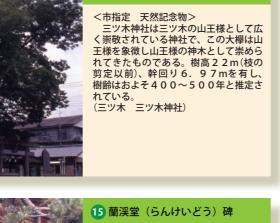
(本町 勝願寺蔵)

のことが後陽成天皇の知るところとカ

いに紫衣の寺のゆかりを色にまであら

天皇は綸旨を賜り紫衣を許されて御





道場を開き、以後45年間わたり多数の

られたものである。

(市指定 考古資料>

鴻巣市教育委員会蔵)

7 箕田9号墳出土遺物

箕田9号墳(宮登古墳)の石室内から 出土したもので、切子玉2、管玉1、棗(な

のめ) 玉1、丸玉10、須恵器腺(はそう

恵器腺は酒を注ぐための容器で、器形か

1がある。装身具類は古墳時代後期(

世紀)以降一般的に見られるもので、

葬者が身に付けていたものであろう。

7世紀前葉の年代が考えられる。

18 馬室小学校校地内出土遺物

馬室小学校の校庭から発見されたもの

の古墳が存在したと想定される。出土遺

物から築造年代は、5世紀末~7世紀中

葉の約150年間に及ぶことが判明して

<市指定 考古資料>

巣市教育委員会蔵)

〈市指定 老古資料〉

加美 池元院)

1881) 8月に門弟たちによって建

原字沼向の水田中より出土したもの

男子人物埴輪の頭部2点である。う

ら生出塚埴輪窯跡で焼成されたもの

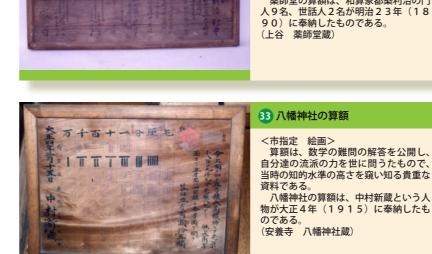
6世紀後半の製品である。黒色土中

ら出土したことから古墳の周濭跡と想

定される。かつては周辺には笠原古墳群

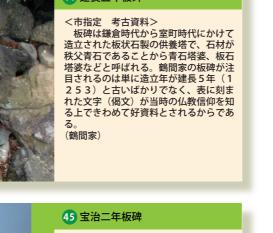
が存在したものと考えられている。

三ツ木神社の大欅



中国の影響を受け、日本で独自の発達 とげた数学を和算といい、江戸時代 関孝和らによって研究が深められた。 用技術と結び付かないために科学とし 認められず、一種の知的競技として地方 人士の間に流行した。 薬師堂の算額は、和算家都築利治の門 人9名、世話人2名が明治23年(18 90)に奉納したものである。 (上谷 薬師堂蔵) 八幡神社の算額





である。宝蔵院の板碑は中央に胎蔵界大

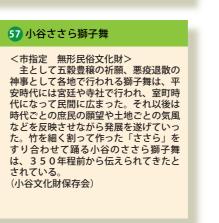
日如来の種子を力強く彫り、下部に紀年

宝治2年(1248)を刻む。雄揮な古

式作風は見事なものである。

(鎌塚 宝蔵院蔵)











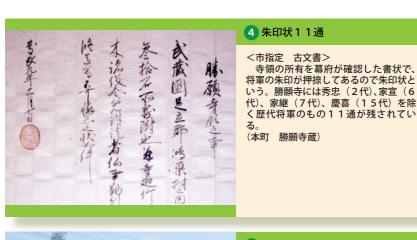


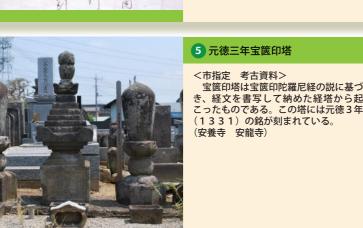
らによって発掘調査され、わが国の埴軸 窯跡研究の先駆けとなった。発掘時に 基の窯跡が発見され、そのうちの2基点 調査の対象となった。これらの窯跡は の後埋め戻され保存されている。近年の 確認調査によれば、指定地周辺には10 基以上の窯跡が存在したことが明らかり (原馬室)



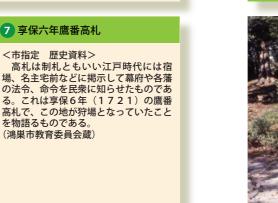










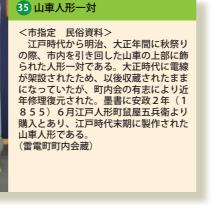


である。切子玉3、管玉4、勾玉6、須 恵器堤瓶(ていへい) 1、壺 1、直刀2、 鉄鏃多数がある。出土遺物の内容から古 墳の副葬品と思われ、往時は多くの古墳 が存在し、馬室古墳群を形成していたこ とが分かる資料である。 鴻巣市教育委員会蔵) 箕田古墳群は、荒川と元荒川の沖積地 囲まれた標高16~18mの台地上に **}布している。現在はわずかに7基が** 残っているのみであるが、往時は数十基

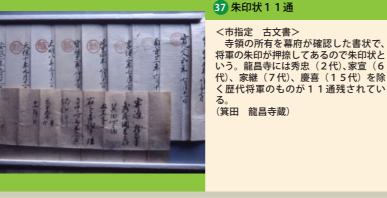


<市指定 民俗資料> 「大山講」は神奈川県の霊山、大山阿 夫利神社へ登拝することを目的に結成さ <mark>れた信仰集団で、御師の活躍で江戸時代</mark> には「大山まいり」が各地で盛んに行われた。この神酒枠は天保6年(1835) に製作されたもので、大山代参者が阿夫 利神社のお神酒を収め、鴻巣まで運んだ 時に使用されたものである。民間信仰 大山講の実態をよく伝えている。 (本一町旧蔵 鴻巣市教育委員会蔵)

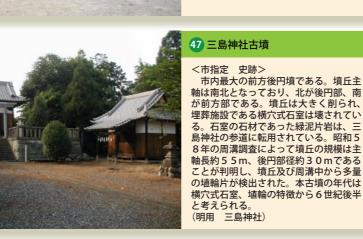




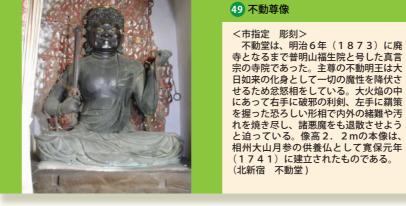


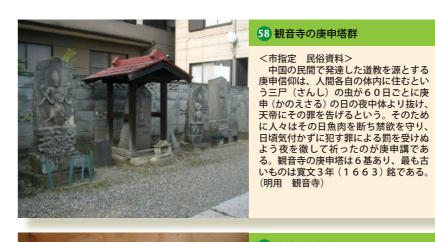






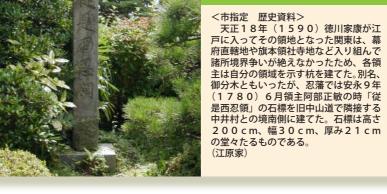






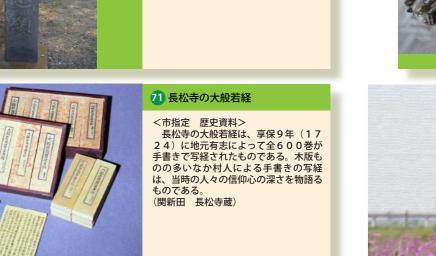








かつては安養寺と屈巣の境に建ってい 防ぐため安永9年(1780)に領内1 6ヵ所に建てたものの一つである。小 石の角柱で「従是北忍領」と彫られて る。高さ133cm、幅30cm。 (屈巣 久伊豆神社)









8415515.indd 2

平成27年9月25日

監 修 鴻巣市文化財保護委員会

鴻巣市東3丁目8番17号 TEL 048-544-1215

編集·発行 鴻巣市教育委員会

T365-0039